

年度末のこの時期は、「成長」の機会があふれている！

進路室長 橋野 幸男

今年度も、「卒業研究」「ゼミナール」「ケア・スタディ」や「フィールド・スタディ」の発表に向け、ラスト・スパートの時期となりました。

私もかつて7度、卒業年次担任として学生と併走したことがありますが、この時期になると思い出すエッセイがあります。詩人・作家である平田俊子さんが、「静岡新聞（日曜版）・読書欄」に連載していたものの一つです（『平田俊子の低反発枕草子』。清少納言の『枕草子』に“低反発まくら”を掛けたもの）。2015年11月8日掲載分のそのタイトルは、『満員御礼、商売繁盛!?!』。

平田さんは本業のほか、大学の文学部で特任教授としてもご活躍でした。この“満員御礼、云々”は、「卒業制作」の提出日がいよいよ迫ってきた時期、先生の研究室が次々と訪ねてくる学生たちで賑わっている、その様子を描いたものです。そのなかに、次のような一節があります。

＝一人目の学生が持ってきた作品を読んでいると、二人目の学生が来る。待っていてもう間に三人目の学生がドアをノックする。そしてまた次の学生が…という具合。～提出日が近づくにつれて、みんな表情が引き締まっていった。その顔を見るのが結構好きだった。

卒業したあと学生に会うと、決まって卒業制作の話になる。「苦しかったけど頑張って仕上げたよ良かった。自信がきました」とロクに言う。何人もの学生に伴走するのはわたしも苦しかったけれど、過ぎてしまえばそれも楽しい思い出。＝

私が担当した学科で言えば、学外と関わる課題にチームで挑戦、その「一皮むける経験」を通して成長し、社会に出る自信を深める。卒業後に集まると、必ず「卒研」の「苦労＆達成」の話題で盛り上がる。平田さんがお書きになっているとおりでなあ、とつくづく思ったものです。

さて、様々な経験の中で、職業人としての「成長」という観点から付加価値が高いのは、どのようなものか。「人材開発・組織開発」研究の中原淳氏は、「『ともに働くこと』『ぶつかりつつ、決めること』、そして『成し遂げること』。この三つが含まれる直接経験」がそうであるとして、次のように述べています。

＝つまり、ビジネスの現場で多様な人々と出会うこと。彼らと議論・討論し、ときには衝突や葛藤を経験しながら、意思決定を行うこと。さらに、それらを共に乗り越え、何かを成し遂げること。

ビジネスパーソンとしてのキャリアは、入社当時からいかにこのような経験を付与されてきたか、あるいは獲得してきたかで決まります。＝

仲間とコラボレイトする「卒業研究」などや、各成果発表会を共同で企画・運営する取り組みは、まさにこの三つが含まれる「経験」の、「学生バージョン」ではないでしょうか。「物事を推し進める力」（例えば、問題発見→課

題設定→目標・施策策定→実行→評価・振り返り ⇒ 次のステージへ）をさらに向上させる場として、ぜひ活かしてください。

また、ゼミナール活動の1年生は、そのプロセス、それを通じて学んだこと・得たことを「ストーリー化」し、来る就職活動での「自己PR」や「ガクチカ」の素材として活用していきましょう。

最後に、上述と関連して、多くの方が引用する理論物理学者 A.アインシュタインの名言を紹介します。

＝学校で学んだことを一切忘れてしまった時に、なお残っているもの、それこそが教育だ。

Education is what remains after one has forgotten what one has learned in school. =

専門学校の「職業実践専門課程」で身に付けた「スキル・セット」（専門性＋汎用的能力＋マインド）は、即戦力としてスタートする皆さんにとって大きな武器です。しかし、技術や経済・社会構造の変化が激しい今日、それらはいずれ、いや、すぐに陳腐化します。常に学び続け、それらをレベル・アップ、バージョン・アップする、あるいは、新たな分野のそれらを身に付けていくことが必須です。その、**学び続けて成長し、社会に貢献しようとする「意欲」**（A.H.マズローの、『自己実現の欲求』+『自己超越の欲求（コミュニティ発展の欲求）』、「学び方」や「考え方」という方法論、さらには刺激し合った「仲間」という財産も、これからの皆さんが活用するであろう、「本学での教育」の重要な成果ではないでしょうか。

2月の行事

- 4日（土）第4回入学選考 立春
- 8日（水）補講授業・卒研・ケアスタ
後期試験・卒業試験 ～22日（水）
- 9日（木）オープンキャンパス 17:00～
- 10日（金）J・B検CBT 16:30～
- 11日（土）建国記念の日
- 18日（土）オープンキャンパス 13:15～
- 20日（月）周年事業週間 ～26日（日）
- 21日（火）ケアスタディ発表会
- 23日（木）天皇誕生日
- 24日（金）文化祭
- 25日（土）学校法人50周年記念式典・講演
- 26日（日）学園祭
- 27日（月）文化祭・学園祭振休
床面清掃



学校法人中村学園50周年記念事業
令和5年2月20日（月）～2月26日（日）実施

永く心に留めたい 学校法人中村学園 創立50周年記念事業
～職業教育70年、学校法人設立・幼稚園開園50年

専門学校開校35年、保育園開園10年～

副校長 有賀 浩

来る2月20日（月）～2月26日（日）、一週間を通じて周年事業週間とし、学校法人中村学園50周年記念の文化祭・学園祭、記念式典・講演、同窓会イベントを開催します。

昭和26年、本学園創設者、中村忠雄学園長先生が職業教育を始められて70年、学校法人中村学園並びに第一ひかり幼稚園が創設されて50年、現在の専門学校静岡電子情報カレッジの前身である静岡電子専門学校・専門学校静岡スクールオブビジネス両開校35年、静岡福祉医療専門学校25年。学内に設置する保育園キッズハウスひかり開園10年、第一ひかり幼稚園に併設される保育園キッズハウスよいち開園5年と、区切りの年となる今年度である。

ゆえに、本学園の長き伝統と輝かしい歴史を振り返りながら、その功績を共に祝う記念事業を挙げる運びとなりました。

10年前、職業教育60周年を迎えた折、中村徹理事長・校長先生が著された本学園の歴史を紐解いてみますと……

中村忠雄学園長先生は、第二次世界大戦後の社会復興を支えるための「人づくり」「職業教育」を昭和26年（1951年）、私塾の編み物教室から始められました。翌昭和27年（1952年）、各種学校「中村技芸専門学院」に移行開校。その後、中村忠雄学園長先生は実に12年余の年月を注いで現在の専修学校制度を創り上げられました。その制度発足と同時に昭和51年（1976年）、専修学校「静岡服飾専門学校」に改名。また人間形成の基礎は幼児教育の段階でなくてはならないとの理念から、昭和46年に学校法人中村学園を設立、第一ひかり幼稚園を開園されました。

昭和61年、現在の専門学校の前身である専門学校2校（前述）を開校。以降、北海道情報大学とのコラボによる4年制学科を設置、通信衛星JC SAT IIを介したリアルタイム・双方向性教育システムPINE-NET、CAIの活用、静岡にしながら東京と札幌等全国18の教育センターを結び、先端技術が学べるという先端教育システムなど、常に先進的な教育環境を導入。

平成10年4月、2校を併合して専門学校静岡電子情報カレッジ、また、福祉・子ども分野のプロフェッショナルを育成するために静岡福祉医療専門学校を新設し、以来、急速に変化する時代のニーズに合致した人材を育成・輩出し続けています。

記念事業では国・県・市や各種団体の長を来賓としてお招きして、教職員・学生が一堂に会し、記念式典を挙るとともに、記念講演、同窓会総会、祝賀会と、学園内外の多くの方々と共に学校法人中村学園50周年を祝い、大きな道標とします。

参列される全ての皆さんにとって、心に永く残る事業とできるよう準備を進めております。最後まで、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

周年事業を成功させよう!!

教頭 富田 順子

令和5年2月20日から2月26日、“学校法人中村学園50周年”周年事業期間を迎えます。この期間に我道祭（文化祭・学園祭）、50周年記念事業、同窓会総会が開催されます。

我道祭においては、文化祭にて学生の皆さんのこれまでの学習成果を発表する場が設けられ、学園祭においては3年ぶりに外部の方を入れての模擬店やバザーが催されます。

また、2月25日に開催される“学校法人中村学園50周年記念式典”においては、たくさんの来賓の方々がお祝いに駆けつけてくださるなか、幼稚園お祝いの会をはじめ、記念講演、同窓会総会、祝賀会など盛大に行われます。



専門学校30周年記念事業の様子

その中でも、学生の皆さんを対象に実施される記念講演は、“東京2020パラリンピック開会式”において国歌独唱をされた佐藤ひらりさんによる「夢を叶える私の秘訣」をテーマに、同世代の皆さんに分かりやすくお話していただきます。

佐藤さんは、生まれながらに全盲でありながら、現在音楽大学に通う現役大学生シンガーソングライターとして活躍中です。ハンデキャップをものともせず、コロナ禍においても精力的に活動をつづけ、ついにはパラリンピックという大舞台で夢を掴むことに成功しました。そんな彼女の講演は、まだまだ人生これから！という皆さんにとって大変貴重な機会となることと思います。

次に、第4回同窓会総会においては、専門学校35周年を迎えるにあたって、卒業生同士、並びにお世話になった先生方との旧交を温めると共に、今後さらなる母校の発展に協力していきたい！との願いのもと、開催する運びとなりました。コロナ禍で人と会う機会の少なかったこの3年間、人との繋がりを求める卒業生が多かったこともあり、前回の第3回同窓会総会を実施した時より2倍以上の卒業生の参加申し込みをいただき、大変うれしく思っております。

卒業生は学校の宝です。卒業生の中には活躍の場を海外に移している方、また独立・起業され、本学学生を採用してくださっている方、施設・保育園等で施設長・園長をされている方など、現在いろいろな舞台で活躍されています。そんな卒業生とも情報交換ができる同窓会総会は、今後も継続して実施していくことが求められると感じました。

学生のみなさんもこの記念すべき周年事業期間に花を添えることができるよう、卒業研究発表会・ケアスタディ発表会・ゼミナール発表会に向けて準備をしていきましょう。



令和4年度 我道祭（文化祭・学園祭）

令和5年2月24日(金)～2月26日(日)実施
学生会教員 隈本 つばさ

今年度の我道祭がいよいよ始まります。今年度は学校法人中村学園設立50周年・専門学校創立35周年という記念すべき年でもあり、内容の濃い3日間となります。文化祭では、昨年度と同様にリモートを活用し全学生が発表をきくことができます。自分が学んでいる分野以外の発表をきき、今まで知らなかった知識や技術に触れることで自分の引き出しを1つでも多く増やす良い機会にしてください。

また、数年ぶりに一般の方が来校できる学園祭もあります。本校は地域に愛される専門学校であり、コロナ禍以前はバザーで整理券を配って対応しなければならぬくらい、多くの方が来校してくださっていました。本校の学生だけでなく、地域の方や学生のご家族も来校できるということで、クラスイベントはぜひクラス一丸となって対応・販売をお願いします。

今年度の我道祭も学校・学科をこえて交流を深め、楽しい思い出をつくってください！！



昨年度の様子